

西陵中学校だより

令和4年2月14日(月)

第22号

学校 HP アドレス <http://www.yokkaichi.ed.jp/seiryō>

□□□ 学校アンケートへのご協力 ありがとうございました □□□

本校では、生徒の皆さんや保護者の方々からアンケートにお答えいただき、教師自身が自己を振り返るとともに、学校教育の一年間の反省や次年度への方向性を考えさせていただいております。

本年度も、「学校づくりビジョン」で学校教育目標や具体的な重点目標をお知らせし、教育活動に取り組んで参りました。それぞれの結果をふまえて改善すべき点をはっきりさせ、次年度への教育活動に生かしていこうと考えておりますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

令和3年度の西陵中学校についてのアンケート結果

(「そう思う」「だいたいそう思う」の合計の割合を集計)

① 学校教育目標実現に向けた努力	・・・生徒 98%	保護者 91%
② 充実した学校生活	・・・生徒 93%	保護者 94%
③ わかる授業	・・・生徒 97%	
④ 適切な評価	・・・生徒 97%	保護者 85%
⑤ キャリア教育の推進	・・・生徒 97%	保護者 74%
⑥ 道徳・人権教育の充実	・・・生徒 97%	保護者 85%
⑦ 仲間づくり	・・・生徒 94%	保護者 88%
⑧ 危機管理体制	・・・生徒 95%	保護者 93%
⑨ 生徒指導上の問題への対応	・・・生徒 96%	保護者 83%
⑩ 教育相談	・・・生徒 95%	保護者 86%
⑪ 部活動の充実	・・・生徒 81%	保護者 79%
⑫ 保護者・地域との連携	・・・生徒 94%	保護者 88%
⑬ 情報の発信・受信	・・・生徒 97%	保護者 90%



この結果から、生徒が学校生活全般に対して、意欲的に取り組んでいることがうかがえ、教師と生徒が良好な関係を築けていると考えられます。

本年度も2学期始めに新型コロナウイルス感染防止のための休校期間があり、授業時間の確保や学習進度が心配されましたが、アンケートの結果を見ると「授業が分かりやすい」「学習の評価を適切にしている」と答えた生徒がいずれも97%と、コロナ禍以前よりも上昇していることは、とても喜ばしい結果です。今後も授業改善を行い、少人数教育やICTを活用した授業を工夫するなど、さらなる努力を続けたいと考えます。

適切な評価については、本年度より新学習指導要領が適用され、評価の観点および評価方法が変わりました。この状況の中で生徒97%・保護者85%と高い評価を得ています。ここ数年、各教科のシラバスを生徒および保護者に示し、評価の観点および評価の方法を明確にしていることがアンケート結果につながっていると考えます。定期テストや確認テストの点数や提出物だけではなく、毎時間の学習活動への参加状況や各單元における思考力や技能、表現力なども大切にして評価に取り組んでいます。教師が評価の課程に具体的な説明責任を果たし、生徒が一層意欲的に取り組めるような授業の工夫と評価のあり方についてさらなる研修を深めていきます。

キャリア教育の推進について、生徒は97%と例年と変わらず高い値を示しています。しかし、保護者は74%と全ての項目の中で最低の値を示し、コロナ禍以前の令和元年度から11ポイントの減少がみられました。コロナ禍で様々な体験活動が中止になったことに代わる魅力的な学習が提供できていないという指摘と捉えています。子どもたちが自分の将来について関心を持ち、生き方について考える機会を今後も増やしていきたいと思えます。

部活動の充実に関しては生徒の評価では11ポイント下落し、保護者の評価も8割を切る結果となりました。コロナ禍で活動に制限があったことやアンケート直近に中体連の新人大会が中止になったことも要因と考えられます。しかし、日常の活動する様子からは、熱心に活動している生徒の姿が見られます。学校運営協議会の委員の皆様からも部活動指導が持つ教育的意義や役割の重要性についてのご意見も頂きました。これらの指摘に対して真摯に受け止め、再度全職員がその意義を認識し、今後指導に当たっていききたいと考えます。

「仲間や友達との関係はうまくいっていますか」や「安心して安全な学校生活を送ることができますか」との問いには生徒はそれぞれ94%、95%と高い値となっています。しかし、昨年度から微減とはいえ下がった結果でした。コロナ禍での閉塞感もあり、自由に思いきり活動できない日々が続いている影響もあるかと考えられます。今後も生徒の気持ちに寄り添いながら、コロナ禍に対応した仲間づくりや安全安心な学校づくりを進めてまいります。

本年度は四日市市版コミュニティスクール初年度であり、地域と学校とのつながりをより強めたいと考えていましたが、地域行事の中止や学校行事への地域・保護者の参加の制限などつながりを構築するのが難しい1年でした。そんな中でも、ホームページやYouTubeの配信などを最大限活用し、体育祭・文化祭・部活動など、生徒たちの活動する姿を発信しました。また本年度より学校だよりを地域の回覧板に乗せる取組も始め、このような取組の結果が、学校アンケートの「情報の発信・受信」の項でコロナ禍前と比べ生徒で14ポイント、保護者で9ポイントの上昇につながったと考えます。来年度は地域の様々な教育資源や人材を積極的に協力して連携を深めながら、地域の子どもたちの成長を共に見守って頂きたいと考えます。

信頼のある学校づくりは、生徒や保護者はもとより地域との共働も大切です。教職員が生徒一人ひとりを理解し、保護者との信頼関係を構築しながら、地域とのつながりを強くし、ともに生徒の健やかな成長を支援していく必要があると考えています。引き続き一層のご理解とご協力をお願いします。

